

2025 年 7 月 6 日

## 「インド洋における米印協力の可能性」 (日米同盟研究会コメンタリーNo. 73)

ケンブリッジ大学客員研究員  
加藤 智裕

前回のコメンタリーでは、5 月の印パ軍事衝突後も米印・米パ関係に大きな変化はないと述べたが、その後、米印関係に陰りが見え、米パ関係には改善の兆しが現れた。当初、G7 首脳会合で予定されていたトランプ大統領とモディ首相の会談は、トランプの早退で流れてしまった。帰国したトランプはモディに会談を打診したが、モディは応じなかった。一方、6 月 18 日、パキスタンのムニール元帥はホワイトハウスでトランプと昼食を共にした。モディが訪米していれば、トランプは印パのリーダーを引き合わせ、カシミール問題解決に向けた仲介を狙ったかもしれないが、第三国の仲介を嫌うモディからすれば、ムニール元帥と同時期にワシントンを訪問するという選択肢は取りえなかった。

ムニール元帥はトランプとの昼食会にて、改めてトランプが印パの停戦仲介に果たした功績を称え、その後、パキスタン政府は正式にトランプをノーベル平和賞に推薦する決定を行った<sup>1</sup>。対照的に、6 月 17 日にトランプと電話会談を行ったモディは、改めて印パ停戦におけるトランプだけでなくあらゆるレベルでのアメリカの仲介を否定した<sup>2</sup>。ところが、トランプはモディの主張に反発するような形で、改めて自らが仲介したことで印パ停戦が実現したことを NATO 首脳サミットの記者会見の場で喧伝した<sup>3</sup>。

上記のような展開を受けて、トランプ・モディ間の信頼関係は損なわれ、米印関係に暗雲が立ち込めているという評価も聞かれる<sup>4</sup>。しかしながら、中長期的な視点に立てば、これまで防衛・経済・技術など多岐にわたる分野で築き上げてきた米印協力関係の進捗を、印パ停戦におけるアメリカの仲介の有無に関する認識の相違や、歴史的にも根深く、即時の解決が困難なカシミール問題由来で後退させることは大きな機会損失であると考ええる。特に防衛協力に関しては、ロシア・ウクライナ戦争の影響もありインドのロシア製兵器の購入が減少傾向にあり<sup>5</sup>、インドにアメリカ製兵器や防衛装備品をより多く売却する機会が訪れているといえる。これはトランプ自身も 2 月の首脳会談でモディに対して要求していたことである<sup>6</sup>。一方のインドにとっても供給先多角化及び中露関係の緊密化に対する懸念を考慮すれば、アメリカからの防衛装備品等を購入することは対中安全保障の観点からも必要かつ重要であるといえる。

さらに、中長期的な米印の防衛協力の観点から、両国が関係を発展・深化させるポテンシャルが依然として高い舞台の一つがインド洋であると考ええる。以下では、インド洋における米印関係について、これまでの経緯やワシントンでの議論を紹介しながら論じていく。

オバマ政権のリバランス以降、アメリカはインドをインド洋における主要な「安全保障提供国(provider of security)」と位置付けるなど<sup>7</sup>、同地域での協力の重要性は両国間で認識されてきたも

の、インド洋戦略について具体的な協力関係はなかなか進展しなかった。しかし 2025 年 5 月 22 日、イギリスがモーリシャスとの間でディエゴガルシアを含むチャゴス諸島の主権の返還、及びディエゴガルシアの基地についてはその使用料を支払うことに合意した<sup>8</sup>。兼ねてよりモーリシャスのチャゴス諸島の主権を支持してきたインドは<sup>9</sup>、同合意を歓迎した。一方のアメリカも、同合意の成立前にインド太平洋地域の同盟国及びパートナーを支援する目的でディエゴガルシアに B-2 爆撃機、C-17 軍用輸送機、給油機を追加配備し、防衛能力と抑止力を強化しており<sup>10</sup>、インド太平洋戦略における同基地の重要性は高まっていた。このような中、英・モーリシャス合意によって、アメリカのディエゴガルシア基地の継続利用が担保されたのであった。米印両国にとって、インド洋で実施してきた人道支援を目的とした合同演習にとどまらず、米印海軍の相互運用性の向上も視野に入れた、より幅広い分野で協力できる環境が整ったともいえる。

ワシントンの政策コミュニティにおいても、これまでまとまった政策・戦略文書として昇華されていなかったインド洋戦略を形成・展開すべきと主張する論考が出てきている。ディーン（Peter Dean）、グリーン（Michael Green）、ネイソン（Alice Nason）らは、*Washington Quarterly* 誌の論考のなかで、ジブチの基地からカンボジアに至る中国のインド洋における長期的な軍事プレゼンスの拡大を念頭に、インドを信頼できるパートナーとして、インド洋における脅威評価（threat assessment）の共有や軍事演習、アメリカの兵器売却を通じたインド海軍の強化を支援していくべきだと主張する<sup>11</sup>。そのほかにもアメリカのインド洋戦略の柱として、AUKUS の推進、QUAD での海洋安全保障協力の強化、インド洋地域諸国へのインフラ支援、インド洋を分割する形で展開されているインド太平洋軍・中央軍・アフリカ軍の定期的な戦略会議の実施などを提案している。

ディーンらが主張するように、インド洋における米印協力の強化は、同地域における中国の影響力拡大を考慮すると中長期的に米印双方にとって重要であることに疑いはない<sup>12</sup>。事実、2 月のトランプとモディの会談でも、インド洋での協力強化について、インドのインド洋における偵察能力の強化や海底ケーブルへの投資を推進する「インド洋戦略的ベンチャー（Indian Ocean Strategic Venture）」の立ち上げなど、これまで以上に具体的な方向性が示された<sup>13</sup>。また、ディーンらも指摘するインド海軍強化は、前述したインドによるアメリカ製兵器・防衛装備品の購入、というトランプの要求を満たすこともできる。このように同地域における具体的な協力関係を進展させることは、印パ対立の仲介に固執して見えるトランプのマインドを、リージョナルな舞台での米印の協力関係に引き戻す一手となる可能性もあるのではないかな。

ただし、直近のトランプの発言などからは、印パ停戦への介入をインドが認めない限り同問題に対して固執し続けそうな印象も受ける。今後のトランプのスタンスによってはインドの対米不信が強まり、関係進展が困難になる可能性も否定できない。

さらに、米印関係の停滞は、日本にも影響をもたらすことになる。

第一に、インドの兵器・防衛装備品調達が多角化の観点から日本の役割はますます重要になると考えられる。今年 5 月には、日印間で自衛隊とインド軍の共同訓練の拡大・深化や、防衛協力の調整を行う新たな協議体の設置、戦車・航空エンジンなど新たな分野での協力可能性や技術協力について協議が行われた<sup>14</sup>。もちろん日印の防衛協力自体は米印関係の停滞が直接的な要因となって進展するわけではないが、インドが日本に期待することもこれまで以上に増え、インド太平洋地域全体での日印の防衛・安全保障協力が一層重要となるだろう。

第二に、米印関係の停滞を打破するため、近年インドと防衛分野での協力を推進しているオース

トラリアと共に<sup>15</sup>、QUAD を通じて米印関係を強く結びつける日本の外交的役割が増大すると思われる。幸いにも7月1日に開催された QUAD 外相会合では、海洋・越境安全保障、経済的繁栄・経済安全保障、重要・新興技術及び人道支援・緊急対応、という重点分野を絞り具体的な行動に移していくことが発表されるなど<sup>16</sup>、現状トランプ・モディ間の印パ停戦に対する認識の相違は米印の協力関係に悪影響をもたらしていないと見受けられる。ただし、同会合で示されたモメンタムを維持できるかどうかは、今年秋にインドで開催予定の QUAD 首脳会合の結果次第であろう。日本としては、首脳会合開催までの米印関係及び、米印関係に影響を及ぼす米パ関係の推移にも注視していく必要がある。

<sup>1</sup> Saeed Shah, “Pakistan to nominate Trump for Nobel Peace Prize,” *Reuters*, June 21, 2025, <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/pakistan-nominate-trump-nobel-peace-prize-2025-06-21/>.

<sup>2</sup> Ministry of External Affairs, “English Translation of Foreign Secretary's statement on the telephone conversation between PM and US President (June 17, 2025),” June 18, 2025, <https://www.mea.gov.in/Speeches-Statements.htm?dtl/39692/English+Translation+of+Foreign+Secretarys+statement+on+the+telephone+conversation+between+PM+and+US+President+June+17+2025>.

<sup>3</sup> Sriram Lakshman, “Used trade deal threat to get India-Pakistan ceasefire, says Trump,” *The Hindu*, June 26, 2025, [https://www.thehindu.com/news/international/used-trade-deal-threat-to-get-india-pak-ceasefire-trump-says-again/article69737123.ece#goog\\_rewarded](https://www.thehindu.com/news/international/used-trade-deal-threat-to-get-india-pak-ceasefire-trump-says-again/article69737123.ece#goog_rewarded).

<sup>4</sup> Satvik Pendyala, “India and Pakistan Face Contrasting Challenges with the Trump White House,” Stimson Center, June 26, 2025, <https://southasianvoices.org/geo-m-in-r-trump-mediation-and-kashmir-diplomacy-06-28-2025/>.

<sup>5</sup> Daniel Markey and David Brostoff, “Friends with Limits: The Future of Russo-Indian Defense Ties,” *War on the Rocks*, April 25, 2025, <https://warontherocks.com/2025/04/friends-with-limits-the-future-of-russo-indian-defense-ties/>.  
ウクライナでの戦闘で使用されているロシア製兵器の性能に対して疑念を抱いているインドの軍事専門家もいるという。

<sup>6</sup> The White House, “President Trump Hosts a Press Conference with Prime Minister Narendra Modi,” February 13, 2025, <https://www.whitehouse.gov/videos/president-trump-hosts-a-press-conference-with-prime-minister-narendra-modi/>.

<sup>7</sup> U.S. Department of Defense, *Sustaining U.S. Global Leadership: Priorities for 21<sup>st</sup> Century Defense*, January 2012, p. 2, <https://s3.documentcloud.org/documents/282223/defense-strategic-guidance.pdf>.

<sup>8</sup> Gov. UK, “UK/Mauritius: Agreement concerning the Chagos Archipelago including Diego Garcia [CS Mauritius No.1/2025],” May 22, 2025, <https://www.gov.uk/government/publications/ukmauritius-agreement-concerning-the-chagos-archipelago-including-diego-garcia-cs-mauritius-no12025>.

<sup>9</sup> Rahul Jaybhay, “India’s historic shift in attitude about a US base at Diego Garcia,” *the interpreter* (published by the Lowy Institute), October 29, 2024, <https://www.loyyinstitute.org/the-interpreter/india-s-historic-shift-attitude-about-us-base-diego-garcia#:~:text=Scrambling%20through%20the%20official%20records,to%20harbour%20US%20nuclear%20submarine>.

<sup>10</sup> “U.S. bolsters Diego Garcia base to support Indo-Pacific Allies, Partners,” *Indo-Pacific Defense Forum*, May 2, 2025, <https://ipdefenseforum.com/2025/05/u-s-bolsters-diego-garcia-base-to-support-indo-pacific-allies-partners/>.

<sup>11</sup> Peter Dean, Michael Green and Alice Nason, “Modernizing US Indian Ocean Strategy,” *Washington Quarterly*, Spring, 2025, pp. 41-59.

インド洋における中国の影響力拡大を念頭においたアメリカの QUAD へのコミットメント強化の必要性については、以下の議論も参照。

Arzan Tarapore, “America Needs a Real Indian Ocean Strategy,” *Foreign Affairs*, April 7, 2025, <https://www.foreignaffairs.com/united-states/america-needs-real-indian-ocean-strategy>.

<sup>12</sup> Ashley Tellis, “India’s Great-Power Delusions,” *Foreign Affairs*, June 17, 2025, [https://www.foreignaffairs.com/india/indias-great power-delusions](https://www.foreignaffairs.com/india/indias-great-power-delusions).

テリスは、長期的な視点からみた時に、インドが中国に対処していくためにはアメリカとの協力が必要であると主張している。

<sup>13</sup> The White House, “United States-India Joint Leaders’ Statement,” February 13, 2025, <https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/2025/02/united-states-india-joint-leaders-statement/>.

---

<sup>14</sup> Ministry of Defence, “Raksha Mantri holds bilateral meeting with his Japanese counterpart in New Delhi,” May 5, 2025, <https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2127087>; 防衛省「日印防衛相会談について」2025年5月5日、[https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/area/2025/20250505\\_ind-j.html](https://www.mod.go.jp/j/approach/exchange/area/2025/20250505_ind-j.html).

<sup>15</sup> Elizabeth Roche, “India and Australia Reinforce Defense Industry Collaboration Amid Rising Challenges,” *The Diplomat*, June 6, 2025, <https://thediplomat.com/2025/06/india-and-australia-reinforce-defense-industry-collaboration-amid-rising-challenges/>.

<sup>16</sup> U.S. Department of State, “2025 Quad Foreign Ministers’ Meeting: Fact Sheet,” July 1, 2025, <https://www.state.gov/releases/office-of-the-spokesperson/2025/07/2025-quad-foreign-ministers-meeting/>.